

- 問1 大正時代、平塚らいてうが先導した、女性の社会的地位の向上と性差による差別からの解放を目指す運動を何という？
- 問2 1912年に再び内閣を組織し、民衆から批判を浴びて第一次護憲運動の発端となった長州藩出身の政治家は誰？
- 問3 大正時代初期、特定の藩出身者が政治を独占する仕組みを批判して起こった政治的な動きを何という？
- 問4 「女性は太陽であった」という言葉を掲げ、大正時代の女性解放運動の中心となった人物は誰？
- 問5 1925年に制定され、満25歳以上のすべての男子に選挙権が与えられるようになった法律を何という？
- 問6 第一次世界大戦後に朝鮮で発生した、日本からの独立を求める大規模な民族運動を何という？
- 問7 1918年、第一次世界大戦による急激な物価上昇の中で、富山県のどこの層の人々が米の安売りを求めて立ち上がったことがきっかけとなった民衆運動は何？
- 問8 1922年に結成され、小作料の引き下げなどを求めて活動した農民団体の組織を何という？
- 問9 平塚らいてうが中心となって創刊し、当時の女性の自由な発信を促した文芸雑誌を何という？
- 問10 労働者が賃上げや労働条件の改善を求めて行う争議のことを何という？
- 問11 藩閥政治を批判し、憲政の擁護を掲げて行われた運動を何という？
- 問12 大正時代に1冊1円という低価格で出版され、知識や文学が広く大衆に広まるきっかけとなった出版物を何という？
- 問13 シベリア出兵の際、日本とともに軍隊を派遣した国はどこ？
- 問14 1922年の全国水平社結成時に中心的な役割を果たした人物は誰？
- 問15 第一次世界大戦後の1919年に、戦後の処理を決めるために開かれた国際会議を何という？
- 問16 賃金上昇が物価上昇に追いつかず、労働者が待遇改善を求めて引き起こした争いを何という？
- 問17 第一次世界大戦後に提唱された民族自決の原則の影響を受け、1919年に朝鮮で発生した大規模な独立運動を何という？
- 問18 雑誌『青鞥』の創刊号で、女性の目覚めを象徴する言葉として使われた天体は何？
- 問19 第一次世界大戦中、日本がドイツの権益を奪う目的で参戦する根拠となった、日本とイギリスが結んでいた同盟を何という？

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え</b> <b>女性解放運動</b>	平塚らいてうは、文学活動である『青鞥』から出発し、やがて具体的な社会改革を目指すようになります。彼女は、女性の政治参加を認めない制度や、不平等な法律を批判し、参政権獲得などを求めました。これは当時の男性中心の社会に対する真っ向からの挑戦であり、後の社会変革の先駆けとなりました。
問2	<b>答え</b> <b>桂太郎</b>	桂太郎は明治後期から大正初期にかけて計3回内閣を組織しました。3度目の内閣成立時、憲法に基づかない政治姿勢に反対する民衆が激しく反発し、第一次護憲運動が勃発しました。
問3	<b>答え</b> <b>藩閥政治</b>	藩閥政治とは、特定の藩出身者が長期にわたって政府の要職を固める政治体制のことです。大正時代に入ると、これに対する国民の批判が強まり、「憲政擁護」を掲げて、憲法に基づいた政党中心の政治を求める運動（第一次護憲運動）が発生しました。
問4	<b>答え</b> <b>平塚らいてう</b>	平塚らいてうは、女性の感性を活かした表現の場として1911年に雑誌『青鞥』を創刊しました。当時の女性の地位向上を求める動きを象徴する「女性は太陽であった」という宣言は、女性が自らの意志で生きる権利を主張したものです。
問5	<b>答え</b> <b>普通選挙法</b>	1925年に制定された普通選挙法により、それまであった「一定額以上の納税」という条件が撤廃されました。これにより、満25歳以上のすべての日本男子が衆議院議員の選挙権を持つようになりました。しかし、同時に治安維持法が成立し、自由な政治活動が制限される側面もありました。
問6	<b>答え</b> <b>三・一独立運動</b>	1919年3月1日、朝鮮の独立を求める人々が各地でデモを行いました。これが「三・一独立運動」です。平和的なデモに対し、当時の日本の統治当局は武力で厳しく弾圧したため、国際的にも注目を集めました。
問7	<b>答え</b> <b>主婦</b>	1918年、富山県の漁村に住む主婦たちが、米の積み出しを阻止しようとした行動が報道されると、同様の困窮に苦しむ人々が共感し、米騒動として全国に広がりました。この運動は暴動の形をとり、警察が出動する事態にもなりました。これは民衆が政治に対する不満を直接行動で示した例です。
問8	<b>答え</b> <b>日本農民組合</b>	賀川豊彦らが中心となって結成した日本農民組合は、日本初の全国的な農民運動組織です。地主に対して団結して交渉を行うことで、農民の権利を守ろうとしました。各地で小作争議が頻発するきっかけとなりました。
問9	<b>答え</b> <b>青鞥</b>	平塚らいてうが創刊した『青鞥』は、女性による、女性のための雑誌として当時の文壇や社会に衝撃を与えました。「元始、女性は太陽であった」という創刊の辞を皮切りに、女性の権利や自立に関する議論が積極的に交わされました。
問10	<b>答え</b> <b>労働争議</b>	労働者は自らの権利を守り、生活を改善するために労働組合を組織しました。労働組合は、使用者に対して賃上げや労働時間の短縮、職場環境の改善を求めてストライキ（同盟罷業）などを行うようになり、これらを労働争議と呼びます。
問11	<b>答え</b> <b>第一次護憲運動</b>	1912年、陸軍が内閣を崩壊させたことに反発し、尾崎行雄や犬養毅らが中心となって「憲政擁護」を訴える運動を開始しました。民衆もこれに共鳴し、大規模なデモが行われました。結果として、藩閥の指導者であった桂太郎の内閣は退陣を余儀なくされ、政党政治の重要性が改めて強調されることとなりました。
問12	<b>答え</b> <b>円本</b>	1920年代に流行した「円本」は、それまで高価で手の届かなかった文学全集などを1冊1円という価格で提供する仕組みです。大量生産・大量販売のモデルが定着し、中産階級の人々が安価に教養を得られるようになりました。
問13	<b>答え</b> <b>アメリカ</b>	日本は当初、アメリカからの要請を受けて軍隊を派遣しました。日本は広大な地域に多大な兵力を送り込みましたが、アメリカは日本単独の影響力が強まることを警戒し、限られた兵力の派遣にとどめました。結果として、シベリア出兵は目的を達せないまま、日本軍にとって大きな損失を出すことになりました。
問14	<b>答え</b> <b>西光万吉</b>	西光万吉は、1922年に京都市で開かれた全国水平社の結成大会において指導的役割を果たしました。彼が中心となって作成された「水平社宣言」は、被差別の人々が被害者としてではなく、人間として対等な権利を持つことを力強く訴えました。
問15	<b>答え</b> <b>パリ講和会議</b>	この会議には日本も戦勝国の一つとして参加しました。会議の結果として結ばれたベルサイユ条約によって、日本はドイツが持っていた中国山東省の権益を継承することが国際的に認められました。また、この会議では国際連盟の設立も決定されました。
問16	<b>答え</b> <b>労働争議</b>	当時の日本では米価が急上昇したことで、労働者たちは生活を守るために団結し、労働争議が頻発しました。これは労働組合の組織化が進むきっかけにもなりました。
問17	<b>答え</b> <b>三・一独立運動</b>	1919年3月1日、ソウルで独立を宣言する集会が開かれたことをきっかけに、朝鮮全土で日本からの独立を求めるデモや集会が繰り広げられました。これは「三・一独立運動」と呼ばれ、日本側は警察や軍隊を出動させて武力で鎮圧しました。
問18	<b>答え</b> <b>太陽</b>	平塚らいてうが『青鞥』創刊号に寄せた宣言文で、「元始、女性は実に太陽であった。真実の人であった。今は、女性は月である」と述べました。これは、古代には女性が自由な存在であったことを示し、失われた権利を取り戻そうとする決意を表しています。
問19	<b>答え</b> <b>日英同盟</b>	1914年に第一次世界大戦が勃発すると、日本はこの同盟を根拠にイギリス側として参戦しました。日本は中国の山東省にあったドイツの拠点などを攻撃し、権益を引き継ぎました。また、混乱に乗じて中国に対して「二十一か条の要求」を行い、中国国内の政治や経済への影響力を強めようとした。